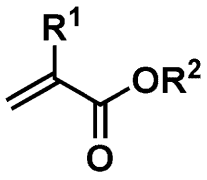
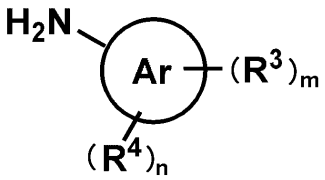
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和6年2月29日(2024.2.29)

【国際公開番号】WO2022/249994
【出願番号】特願2023-523451(P2023-523451)
【国際特許分類】
C07C231/02(2006.01)
C07C311/39(2006.01)
C07C303/40(2006.01)
C07C233/09(2006.01)
C07B 61/00(2006.01)
【ＦＩ】
C07C231/02
C07C311/39
C07C303/40
C07C233/09 B
C07B 61/00 300

【手続補正書】
【提出日】令和5年10月2日(2023.10.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記一般式（１）で表される化合物と下記一般式（２）で表される化合物とを１２０℃を越える温度で反応させてアミド化し、下記一般式（３）で表される化合物を得ることを含む、Ｎ－（ヘテロ）アリール（メタ）アクリルアミド化合物の製造方法。
【化１】

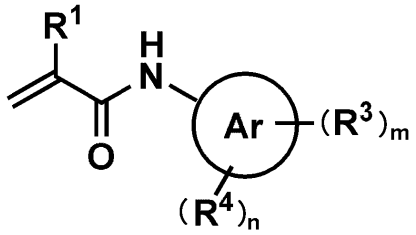


一般式（１）



一般式（２）

【化２】



一般式（３）

各式中、Ｒ^{1}は水素原子又は脂肪族基を示す。Ｒ^{2}は水素原子、鎖状脂肪族基、脂肪族炭化水素環基、アリール基又は複素環基を示す。Ａｒは芳香族環を示す。Ｒ^{3}は電子求引性基を示し、ｍは１以上の整数である。Ｒ^{4}は鎖状脂肪族基、脂肪族炭化水素環基、アリール基又は複素環基を示し、ｎは０以上の整数である。但し、Ｒ^{4}がα－ヒドロキシベンジル基となることはない。ｍ＋ｎの最大値は、Ａｒの環構成原子が有し得る置換基の数の最大値である。

【請求項２】

前記アミド化反応を、少なくとも１種の反応触媒の存在下で行う、請求項１に記載の製造方法。

【請求項３】

前記反応触媒が、ルイス酸、ブレンステッド酸、金属酸化物、及び酸化リン化合物の少なくとも１種である、請求項２に記載の製造方法。

【請求項４】

前記反応触媒としてルイス酸、ブレンステッド酸、及び酸化リン化合物の少なくとも１種を用いる、請求項２に記載の製造方法。

【請求項５】

前記アミド化反応の反応温度を１３０℃以上とする、請求項１又は２に記載の製造方法。

【請求項６】

前記アミド化反応の反応温度を１４０℃以上とする、請求項５に記載の製造方法。

【請求項７】

前記Ａｒがベンゼン環を示す、請求項１又は２に記載の製造方法。

【請求項８】

前記Ｒ^{1}が水素原子又は炭素数１～５のアルキル基を示す、請求項７に記載の製造方法。

【請求項９】

前記ｍが１～３の整数であり、前記ｎが０～４の整数である、請求項７に記載の製造方法。

【請求項１０】

前記アミド化反応の反応温度をマイクロ波照射により制御する、請求項１又は２に記載の製造方法。

【請求項１１】

前記アミド化反応をフロー式反応で行う、請求項１又は２に記載の製造方法。